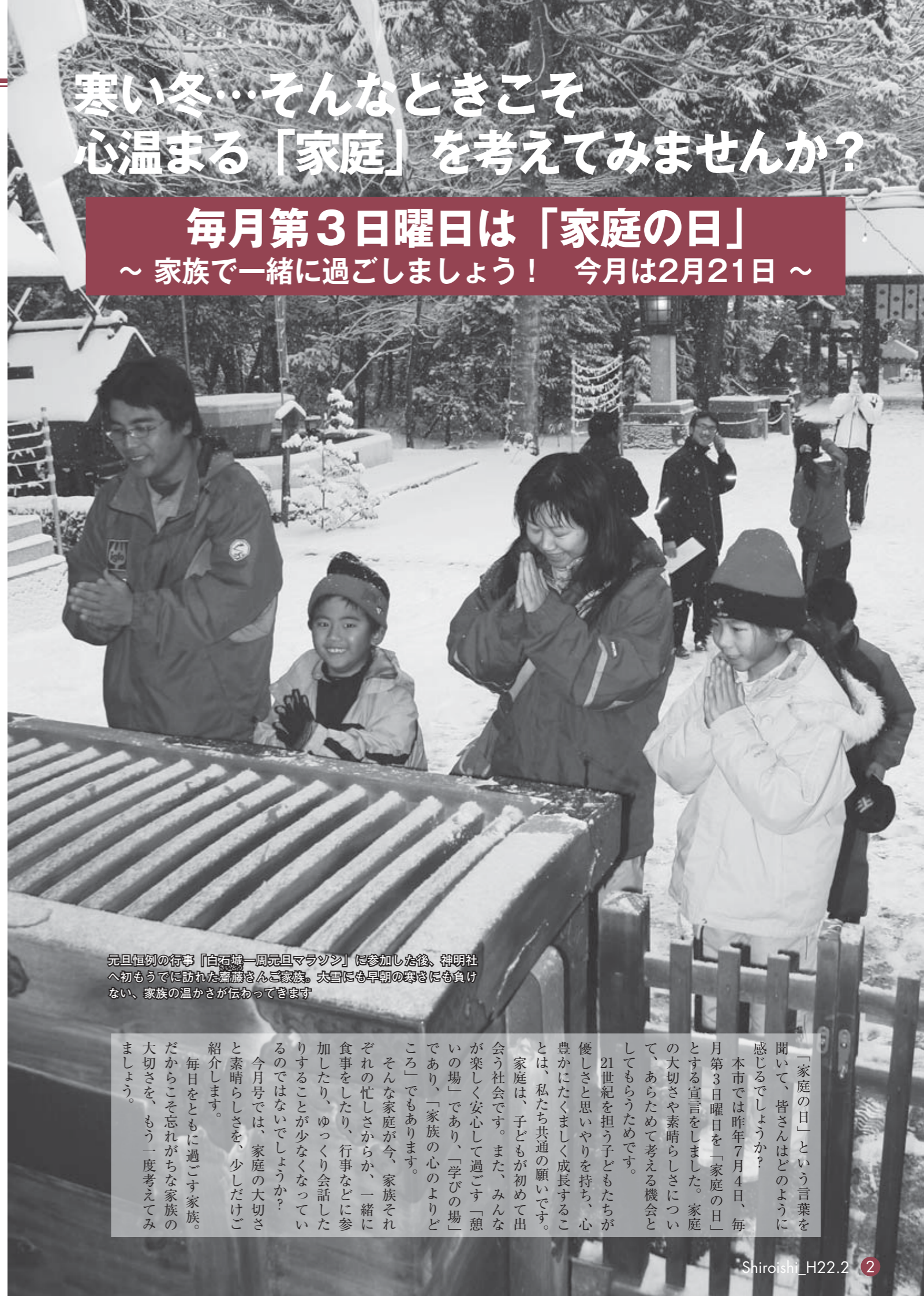


寒い冬…そんなときこそ 心温まる「家庭」を考えてみませんか？

毎月第3日曜日は「家庭の日」
～ 家族で一緒に過ごしましょう！ 今月は2月21日～



元旦恒例の行事「白石城一周元旦マラソン」に参加した後、神明社へ初もうでに訪れた齋藤さんご家族。大雪にも早朝の寒さにも負けない、家族の温かさが伝わってきます

「家庭の日」の由来

家庭の日運動は、昭和30年鹿児島県鶴田町（現さつま町）で誕生しました。

鶴田町では、家庭の中で「家族のきずなが薄れつつあるのではないか」という危機感。そして、当時ほとんど休みのなかった農業従事者のために、「農休日を設けよう」という2つの思いが重なり、「家庭の日」という町を挙げての運動に発展しました。

もつひとつの背景

家庭の日運動が発展したもうひとつの背景。それは昭和30年代後半から昭和40年代にかけて急増した、「青少年非行」の問題にあります。

高度経済成長によって、日本の生活水準は飛躍的に向上しました。その反面、物質的な豊かさは子どもたちの成長にとって、好ましくない影響をもたらしたことは否定できないでしょう。

こうしたことから各自治体では、子どもの健全育成を目的に「家庭の日」運動を進めてきました。

宮城県でも昭和42年に、毎

月第3日曜日を「家庭の日」と定め、さまざまな活動を展開しています。

思いはひとつ 子どもたちの成長

誕生から50年以上たった今。本市でも独自に「家庭の日」を制定しました。

次の世代を担う子どもたちが心も体も健康に育つこと。時代は変わっても、親として、そして人としてこの思いに変わりはありません。

ほとんどの子どもたちは健康やかに成長しています。その反面、これまでの常識では考えられないような少年犯罪が起き、子どもが被害者となる犯罪も多発しています。

そんなときだからこそ、この「家庭の日」には、「家庭の大切さをあらためて考えてほしい」という願いが込められています。子どもたちの成長にとって欠かすことのできない「家庭」。それは、大人にとっても必要なものとも言えるのではないのでしょうか。

この「家庭の日」制定と、青少年の健全育成への思いを、本市の青少年相談センター所長を務める大野博さんに向いました。

Interview

子どもの人間形成の基盤が「家庭」にあります



【大野 博さんプロフィール】
金山小（丸森町）、白石第一小などの校長を歴任。昨年4月より青少年相談センター所長と、「青少年のための白石市民会議」の事務局を務め、子どもたちの健全育成に取り組んでいます

私のところには、子どもの非行に関する問題など、青少年に関するいろいろな相談が寄せられます。家庭の現状はやはりいろいろです。社会的・経済的な影響を受け、地域とのかかわりが薄れている今、白石に限らず、どこでも同じ悩みを抱えているのではないのでしょうか。

この「家庭の日」制定によって、明るい家庭づくりを進めるきっかけになることを願っています。そして、子どもの健全育成につながっていけばと思いますね。

では、実際に家庭ではどのような過ごし方がいいのでしょうか。この質問に「こうだ！」という正解はありません。そ

して、全部を一度にはできません。お父さんの帰りが遅ければ、晩ご飯を家族一緒にできないでしょう。ただ、週に一度、休みの日に少しでも朝早く起きてご飯と一緒に食べるなど、家庭での工夫はできると思います。まずは、できることから取り組んでいくことが大切だと思います。

その中でも一番大事なことは「会話」でしょう。会話は、人間関係はもちろんのこと、家族のきずなを深める一番のものです。

しかしながら、家庭だけの問題ではないこともあります。そして、家庭だけでは解決できないこともたくさんあると思います。

それを支えてくれるのが地域であり、職場であり、学校であり、行政だと思います。では、できないことをどのようにすれば解決できるのでしょうか。それはみんなで知恵を出し合っていくことです。ただ、知恵を出しただけでは実りがありません。その知恵を実行することが大事だと思いますね。

地域として、職場として、学校として、そして行政として何ができるか。11月に開催した「青少年健全育成白石市民のつどい」なども、みんな考えていくひとつのきっかけになればいいですね。

その家庭に合った過ごし方が、きっとあると思います。

「家庭の日」という言葉を聞いて、皆さんはどのように感じるでしょうか？
本市では昨年7月4日、毎月第3日曜日を「家庭の日」とする宣言をしました。家庭の大切さや素晴らしいことについて、あらためて考える機会としてもらうためです。
21世紀を担う子どもたちが優しさと思いやりを持ち、心豊かにたくましく成長することは、私たち大人の願いです。家庭は、子どもが初めて出会う社会です。また、みんなが楽しく安心して過ごす「憩いの場」であり、「学びの場」であり、「家族の心のよりどころ」でもあります。
そんな家庭が今、家族それぞれの忙しさからか、一緒に食事をしたり、行事などに参加したり、ゆっくり会話したりすることが少なくなっているのではないのでしょうか？
今月号では、家庭の大切さと素晴らしさを、少しだけご紹介いたします。
毎日とともに過ごす家族。だからこそ忘れがちな家族の大切さを、もう一度考えてみましょう。